NIE実践報告

１．タイトル：児童と社会を結びつける新聞活用

２．学校名

長野県安曇野市立三郷小学校

３．実践者名（代表者名）

佐原　健治

４．学年

第６学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　３３名

６．単元（本時の学習課題）名

「家族の臓器提供を求められたら　～臓器移植法改正案～」全２時間扱い

７．目標（狙い）

臓器移植改正法に対する自分の考えについて、新聞記事や生活経験を根拠に賛否を明らかにし、級友の意見を聞く活動を通して、自分の見方や考え方を振り返りながらさらに考えを深めることができる。

８．評価の視点

新聞記事から自分の根拠を明らかにして、話し合い活動に参加することができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

モラルジレンマを取り入れた道徳的価値観をはぐくむ話し合い活動（全２時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第１時
・『脳死』『臓器移植法』『臓器移植改正法』について理解する。
・『臓器移植法』に基づき、自分は臓器移植を希望するか考える。
・『自分の家族が脳死状態になった時、臓器の提供を求められたらどうするか』考える。
・新聞記事や自分の生活経験を根拠に、学習カードに立場を記入し、そのように判断した理由を記入する。
第２時
・自分の立場とそのように考えた理由を発表する。
・級友の意見を自分の考えと常に比較しながら聞きあい、つけたし、反対、質問などを自由に意見を出しあいながら、自分の考えを深めていく。
・本時を振り返り、気づいたことや考えたこと、さらに疑問に思ったことを学習カードに記入する。
・自分の意見を発表する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞記事のコメントを中心に、自らの考えを根拠を持って話し合い活動に参加する姿が見られた。

12．成果と課題

一つの社会事象に対して、賛否両面の意見が質量共に平等に記載された記事は、モラルジレンマ型の道徳授業の資料としては効果的であった。
取り扱う記事の内容が難しいと、その理解に時間を要してしまい、定められた時間を超えてしまう。